

# 令和7年度甲州市学校図書館利用満足度調査結果報告書

令和8(2026)年3月

甲州市

# 令和7年度甲州市学校図書館利用満足度調査結果報告書

## 1, 調査の目的

各校の学校図書館に関する状況調査を令和6年度から令和8年度の3年間継続して行う中で、現状の把握と改善点等を検討する

## 2, 調査期間

令和7年11月4日(火)～11月27日(木)

※上記期間内で、各校の状況に応じて1週間程度の期間を設定し実施

## 3, 調査対象

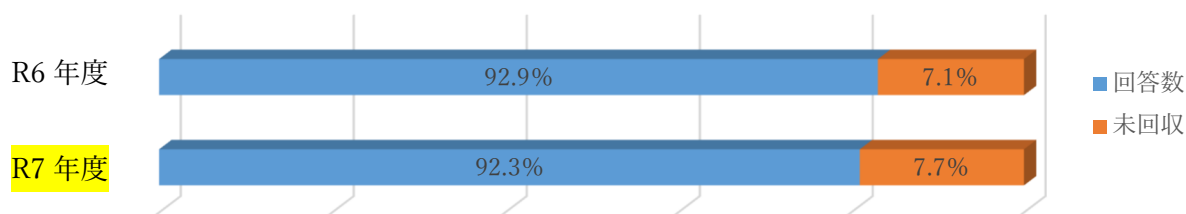
甲州市内全小中学校 16校 小学3年生～中学3年生

## 4, 調査方法

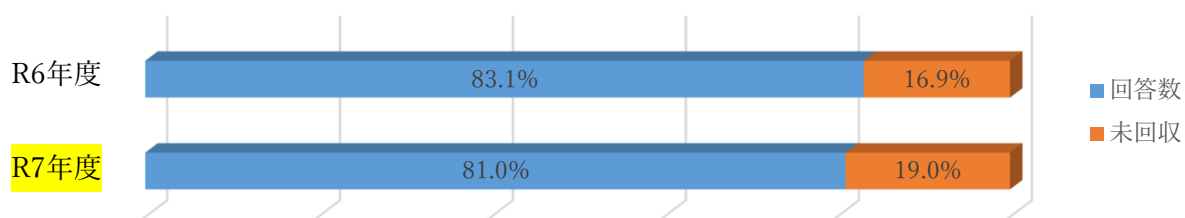
児童生徒の一人一台端末を活用し Google フォームにて回答

## 5, 回答状況

小学校(小3～6)	R6年度	R7年度
回答数	797	772
回答率	92.9%	92.3%



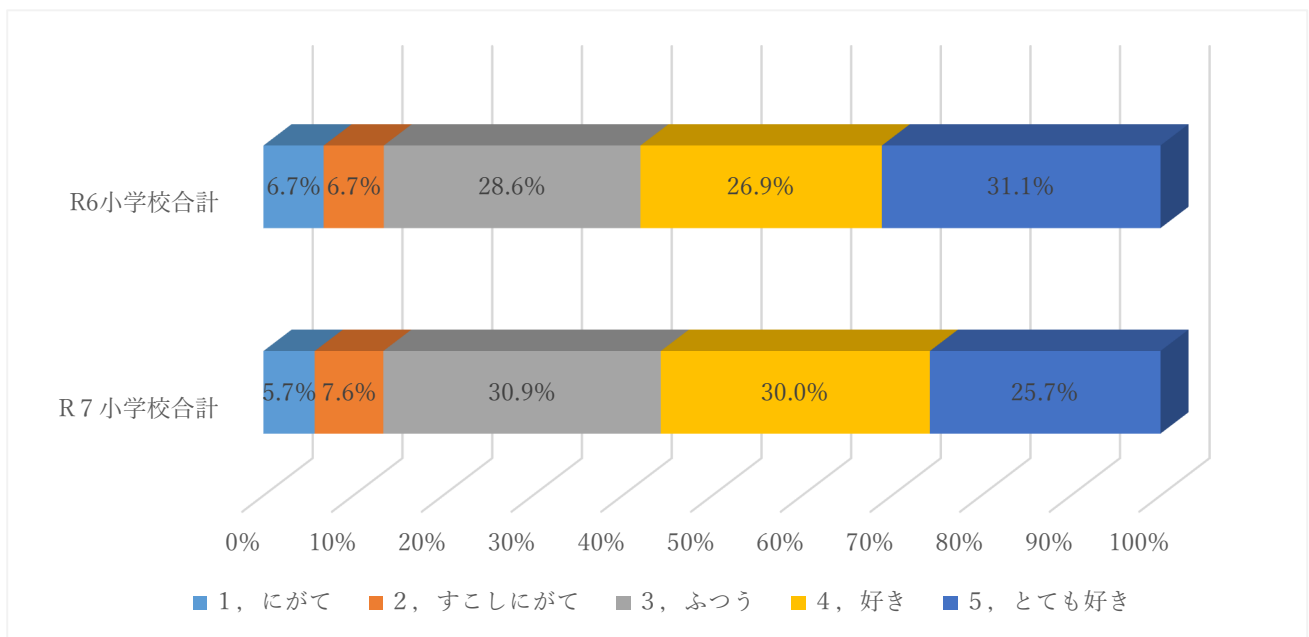
中学校(中1～3)	R6年度	R7年度
回答数	540	500
回答率	83.1%	81.0%



## 小学校：調査の結果

### 【報告1】質問：本を読むことが好きですか？について

	1, にながて	2, すこしにながて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
R6 小学校合計	6.7%	6.7%	28.6%	26.9%	31.1%
R7 小学校合計	5.7%	7.6%	30.9%	30.0%	25.7%



⇒「にながて」「すこしにながて」の回答率について、令和6年度 13.4%から令和7年度 13.3%に減少しています。特に「にながて」の回答率については1%の減少がみられ、大きな苦手意識を持つ児童が減っていることが伺えます。

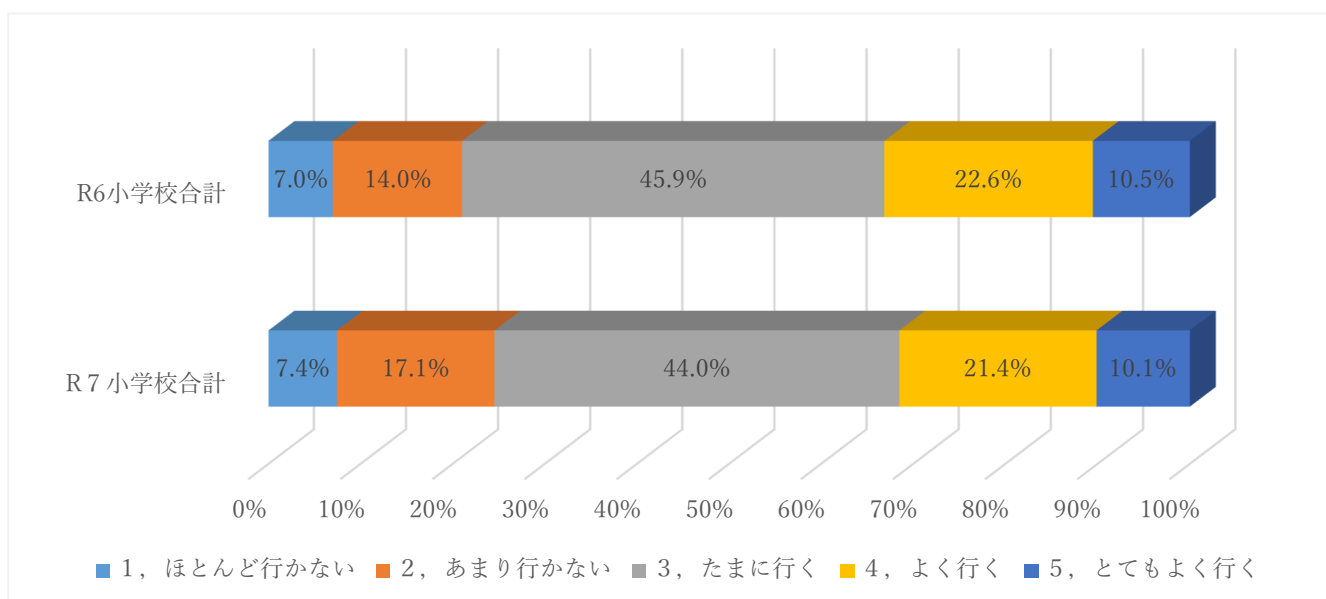
全校1, 2年生の「図書的时间」で定期的に行ってきた読書推進活動の成果が、3年生以上にも根付いていることが伺えます。

今後も継続して実施し、本と触れ合う機会を増やし、読書への苦手意識を軽減していきます。

また「好き」「とても好き」と回答する児童が半数をしめていることから、引き続き読書好きの児童との本を通した繋がりを強化し、全体として読書の楽しさを伝えていきます。

## 【報告2】質問:学校の図書室にひと月にどのくらいいきますか?について

	1,ほとんど行かない	2,あまり行かない	3,たまに行く	4,よく行く	5,とてもよく行く
R6 小学校合計	7.0%	14.0%	45.9%	22.6%	10.5%
R7小学校合計	7.4%	17.1%	44.0%	21.4%	10.1%

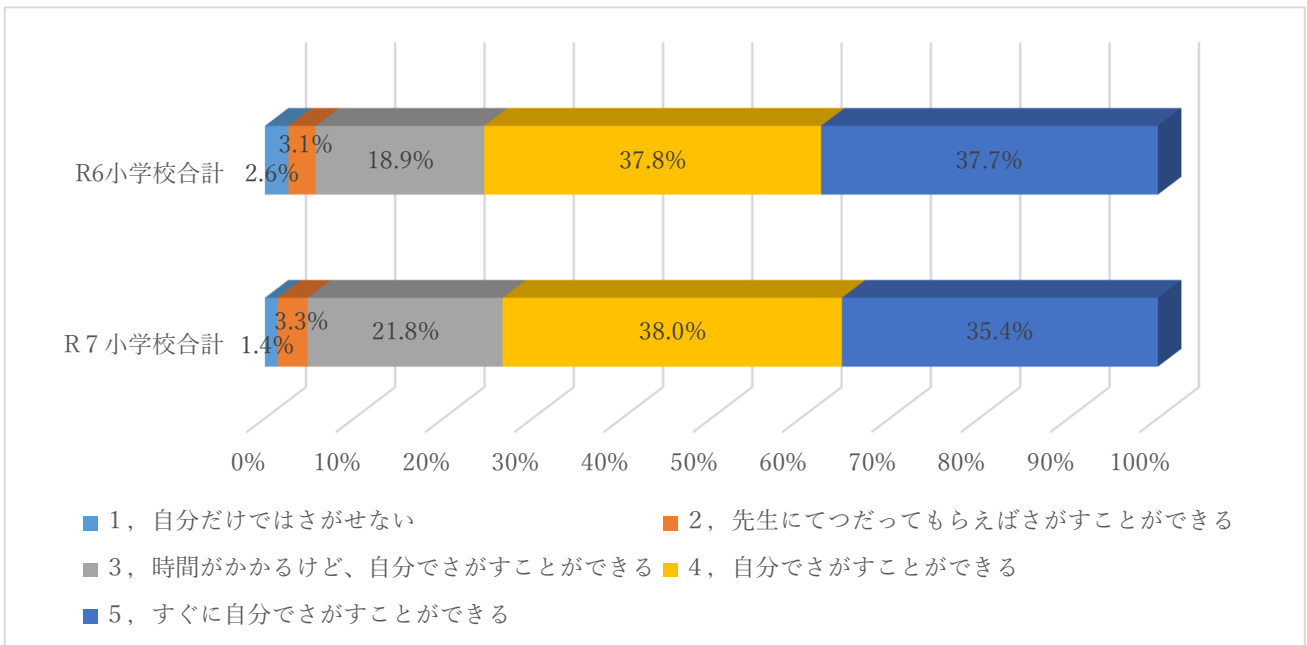


⇒「たまに行く」「よく行く」「とてもよく行く」の回答率は令和6年度 79.1%から令和7年度 75.5%と減少しています。

令和7年度については開館日数の変更があったことも影響していると考えられます。「図書館に行く」ことに関しては、学校行事、学校日課が大きく影響しており、今後も先生方と司書の連携を密にし、時間の確保に努めていきます。

【報告3】質問：学校の図書室で読みたい本を自分でさがすことができますか？について

	1, 自分だけではさがせない	2, 先生に てつだってもらえ ばさがすことがで きる	3, 時間か かかるけど、 自分でさがす ことができる	4, 自分で さがすことが できる	5, すぐに自分 でさがすことが できる
R6 小学校合計	2.6%	3.1%	18.9%	37.8%	37.7%
R7小学校合計	1.4%	3.3%	21.8%	38.0%	35.4%



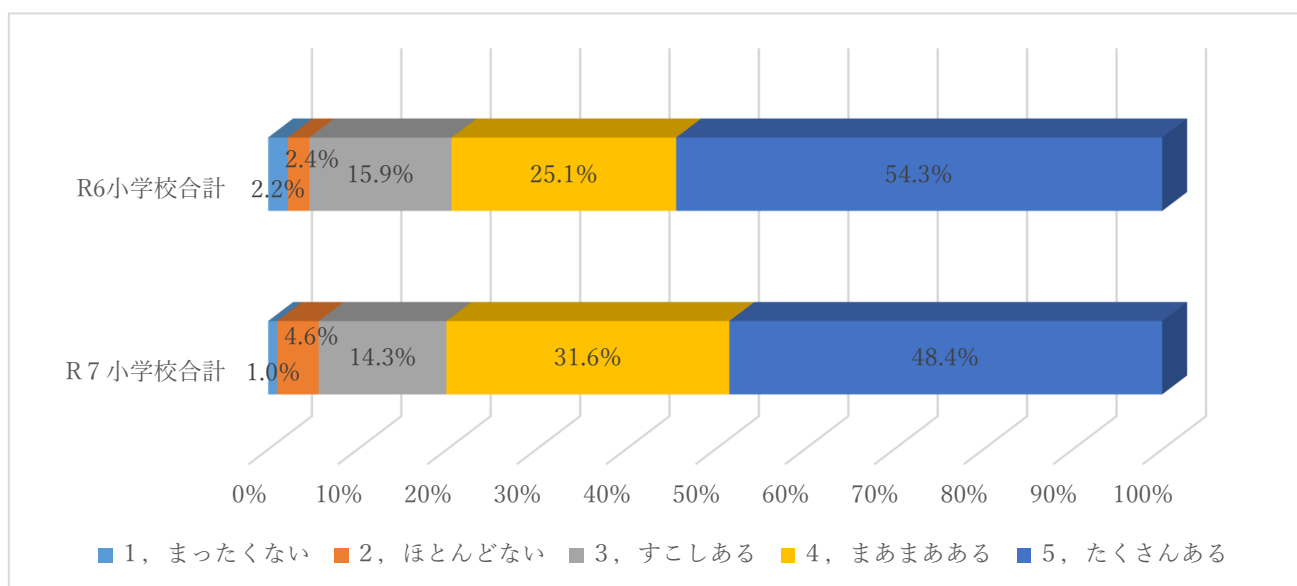
⇒「時間がかかるけど、自分でさがすことができる」「自分でさがすことができる」「すぐに自分でさがすことができる」の回答率は令和6年度 94.4%から令和7年度 95.2%と増加しています。

自分で本を探せる児童が95%を超えており、図書の時間の指導、室内表示の工夫などに加え、電算化で図書館以外の場所からも蔵書検索が可能になったことにより利便性が向上していると感じられます。

読みたい本を自分で探すことができているため、この力を読書の幅を広げる力につなげていける読書推進活動を行っていきます。

#### 【報告4】質問:学校の図書室に好きな本がありますか?について

	1,まったく ない	2,ほとんど ない	3,すこしある	4,まあまあ ある	5,たくさん ある
R6 小学校合計	2.2%	2.4%	15.9%	25.1%	54.3%
R7小学校合計	1.0%	4.6%	14.3%	31.6%	48.4%



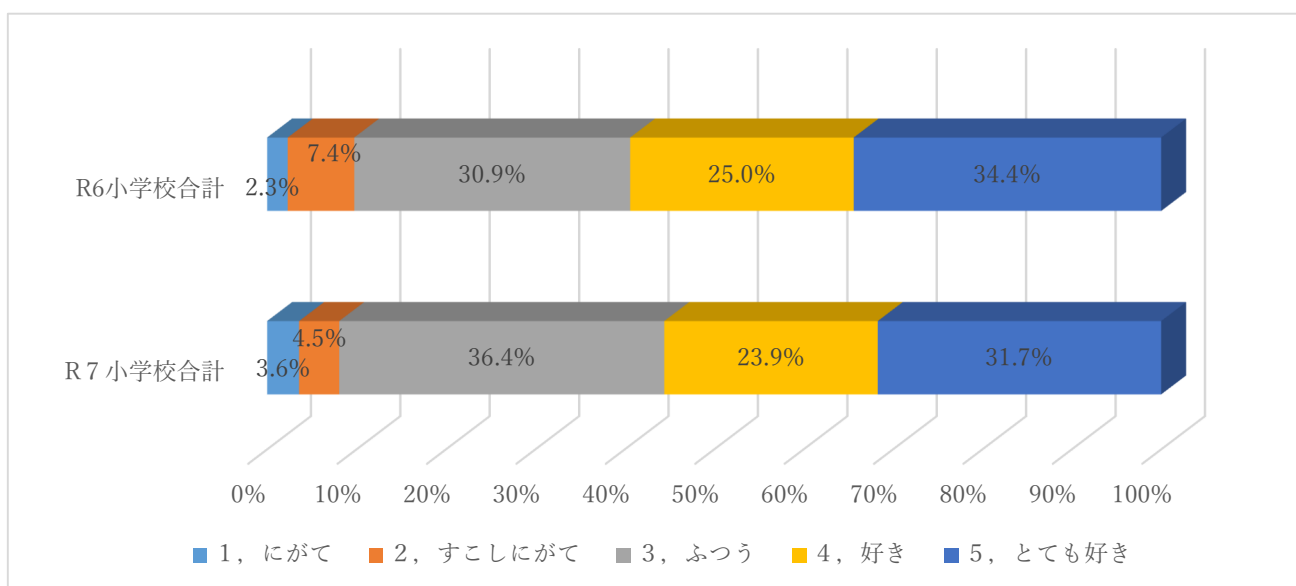
⇒「まあまあある」「たくさんある」の回答率は令和6年度 79.4%から令和7年度 80%と増加している。

学校司書は「学校図書館」として相応しい本の選定を心掛けています。その蔵書の中で児童が「読みたい」と思う本がたくさんあると感じているのはニーズに合った選本ができていると感じています。

「自分の好きな本が身近にある」という事は、今後の読書において大切なことだと感じます。読書好きな児童を増やすきっかけとしてまずは「好きな本」からスタートする中で、段階的に様々な本と出合える手盾を講じていきます。

## 【報告5】質問：学校図書館に行くことが好きですか？について

	1, にかて	2, すこしにかて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
R6 小学校合計	2.3%	7.4%	30.9%	25.0%	34.4%
R7小学校合計	3.6%	4.5%	36.4%	23.9%	31.7%



⇒「にかて」「すこしにかて」の回答率は令和6年度 9.7%から令和7年度 8.1%と減少しています。

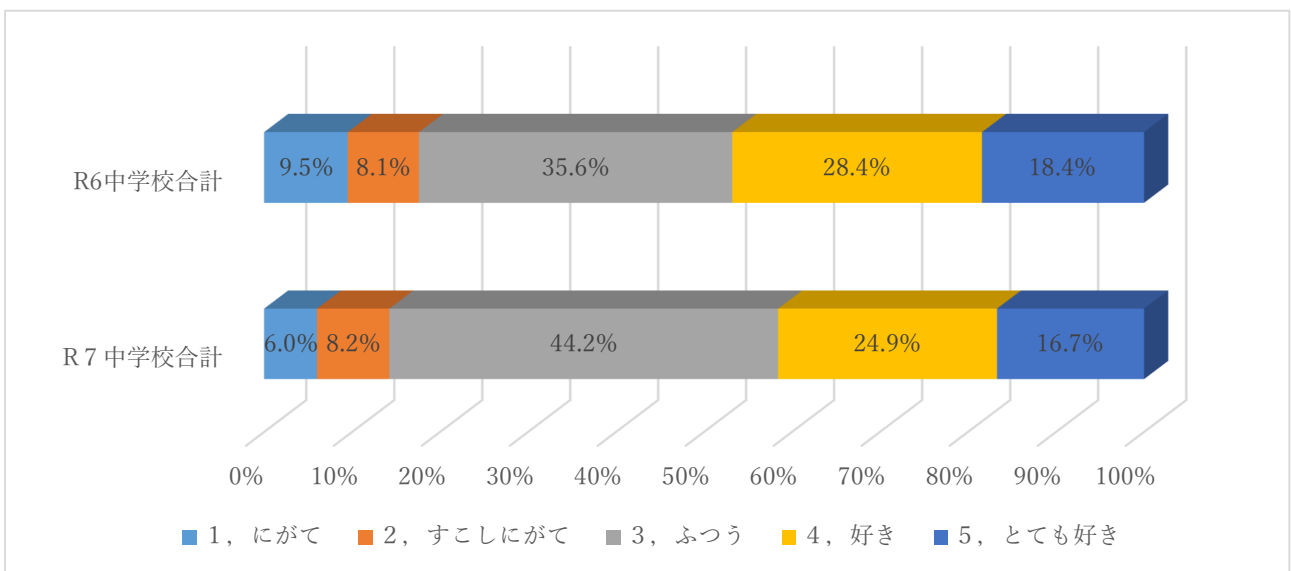
図書館が電算化され、貸し出し手続きが簡素化し、児童の負担が減ったことにより図書館へのハードルは低くなったと感じます。

全体として図書館に行くことは概ね好きな児童が多い。学校図書館は、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割以外にも、児童が気軽に立ち寄れるサードスペース的な役割を担う必要性を意識する中で、児童が安心して学習、読書、生活できる空間を作っていきます。

## 中学校：調査結果

### 【報告1】質問：本を読むことが好きですか？について

	1, にながて	2, すこしにながて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
R6 中学校合計	9.5%	8.1%	35.6%	28.4%	18.4%
R7 中学校合計	6.0%	8.2%	44.2%	24.9%	16.7%



⇒「にながて」「すこしにながて」の回答率について、令和6年度 17.6%から令和7年度 14.2%に減少しています。特に「にながて」の回答率については 3.5%の減少がみられ、大きな苦手意識を持つ生徒が減っていることが伺えます。

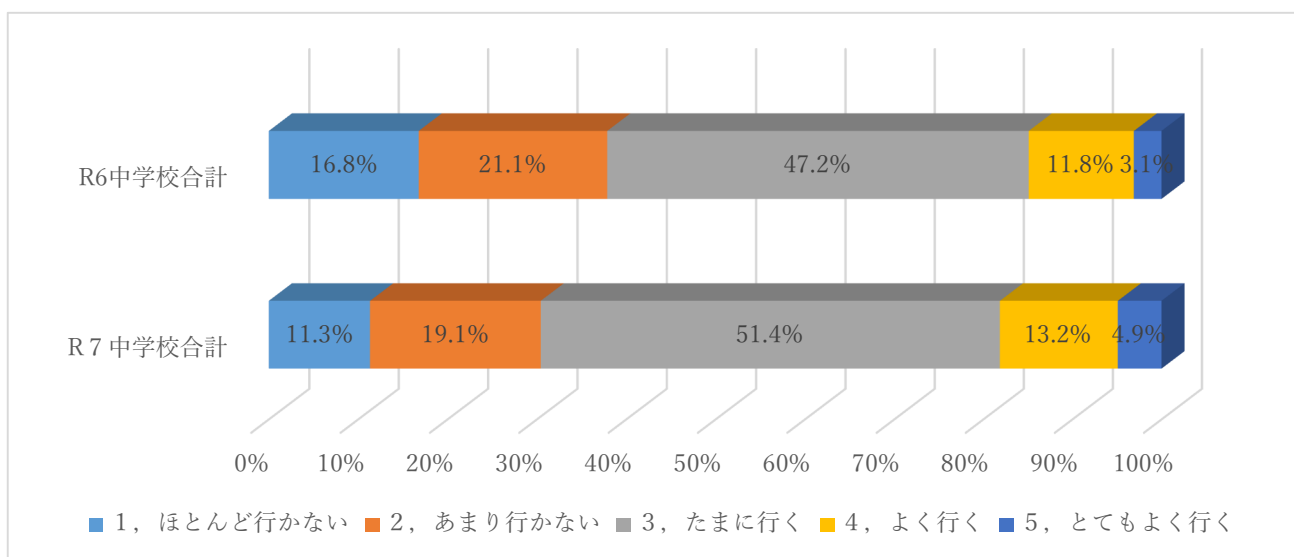
小学生から行ってきた読書推進活動の影響が中学生でも継続されているように思います。

小学生のときと比べると「ふつう」という回答が多くなっています。これは書籍の内容が難しくなることもあり、一般的に言われる読書離れの傾向にあると考えられます。

今後も小学校との連携をさらに深め、長期的な視野にたった読書推進活動を行っていきます。

## 【報告2】質問:学校の図書室にひと月にどのくらいいきますか?について

	1, ほとんど行かない	2, あまり行かない	3, たまに行く	4, よく行く	5, とてもよく行く
R6 中学校合計	16.8%	21.1%	47.2%	11.8%	3.1%
R7中学校合計	11.3%	19.1%	51.4%	13.2%	4.9%



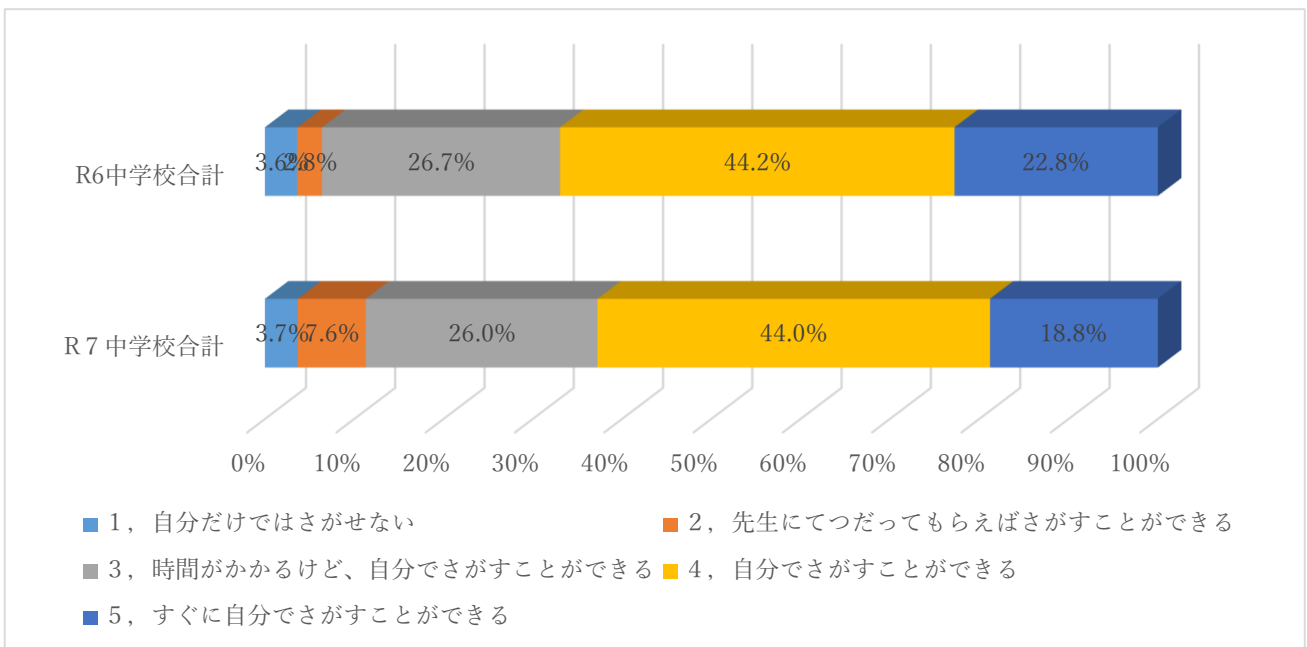
⇒「ほとんど行かない」「あまり行かない」の回答率は令和6年度 37.9%から令和7年度 30.4%に減少しています。

電算化による利便性の向上の影響により、全体的に数値は改善されてきている。

一方で、利用頻度の低い生徒は一定数いるため、今後も「読書のための図書室」という概念にとらわれず、継続して学校図書館の必要さをアピールしていきます。

【報告3】質問:学校の図書室で読みたい本を自分でさがすことができますか?について

	1, 自分だけではさがせない	2, 先生に てつだってもらえばさがす ことができる	3, 時間がかかるけど、 自分でさがす ことができる	4, 自分で さがすことが できる	5, すぐに自分で さがすことが できる
R6 中学校合計	3.6%	2.8%	26.7%	44.2%	22.8%
R7中学校合計	3.7%	7.6%	26.0%	44.0%	18.8%



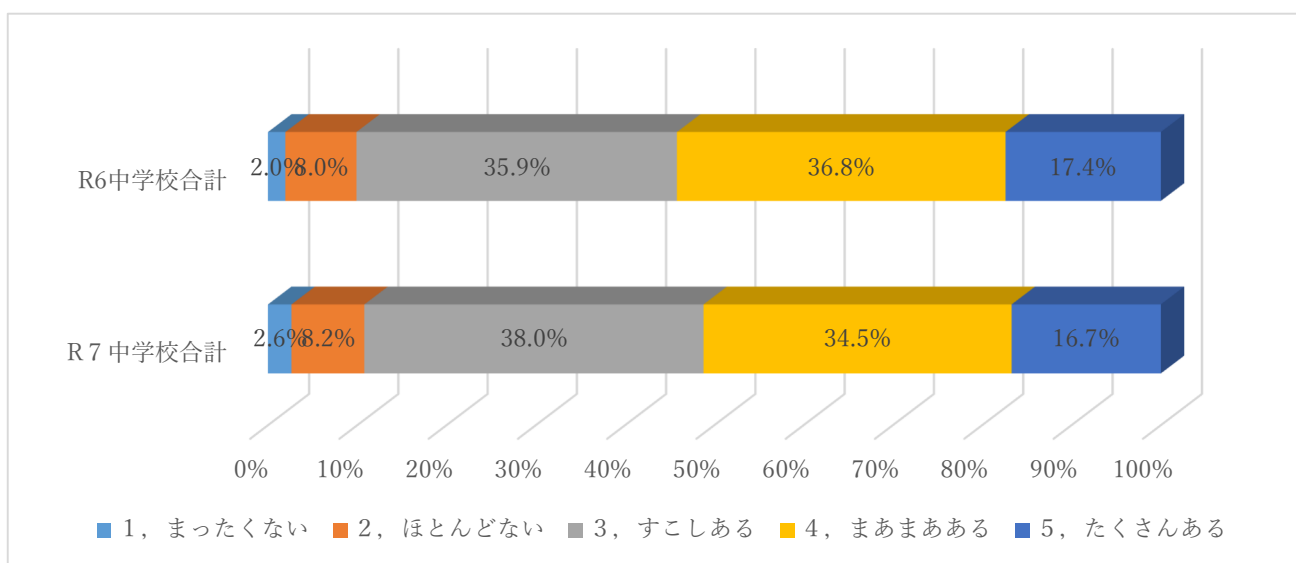
⇒「時間がかかるけど、自分でさがすことができる」「自分でさがすことができる」「すぐに自分でさがすことができる」の回答率は令和6年度 93.7%から令和7年度は88.8%と減少しています。

個々の読書としては、作家やシリーズ、キーワードなどで調べることができるため全体的に多くの生徒は自分で探しやすい傾向にあります。

学習に伴う本は専門的知識が必要になる場面もあることから、本の分類を理解していないと場所が特定できないことがあります。その部分において、電算化によってよりスピード感を持った検索ができるように指導をしていきます。

#### 【報告4】質問：学校の図書室に好きな本がありますか？について

	1, まったくない	2, ほとんどない	3, すこしある	4, まあまあある	5, たくさんある
R6 中学校合計	2.0%	8.0%	35.9%	36.8%	17.4%
R7中学校合計	2.6%	8.2%	38.0%	34.5%	16.7%

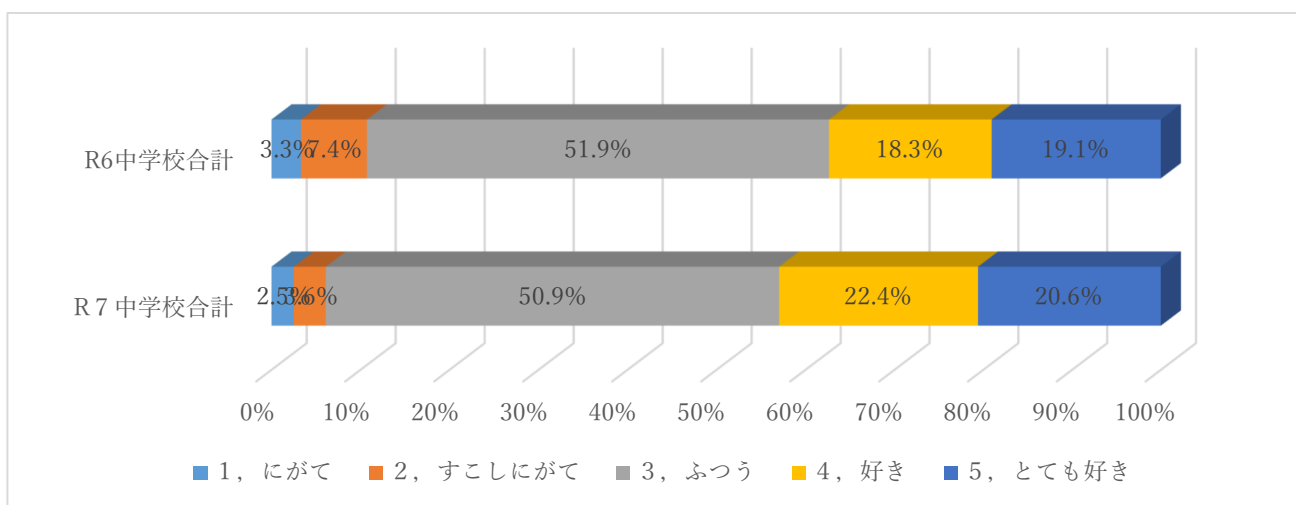


⇒「まったくない」「ほとんどない」の回答率は令和6年度 10%から令和7年度 10.8%と若干増えています。

「好きな本」ということになると個々の嗜好の部分が大きく影響をしてきます。学校図書館という特性上、それらも踏まえたうえで学習資料にも重きを置いていた蔵書構成を行っています。これらの図書を有効活用してもらうため、司書のサポート、助言もかかさず行っていきます。

## 【報告5】質問:学校図書館に行くことが好きですか?について

	1, にかて	2, すこし にかて	3, ふつう	4, 好き	5, とても好き
R6 中学校合計	3.3%	7.4%	51.9%	18.3%	19.1%
R7中学校合計	2.5%	3.6%	50.9%	22.4%	20.6%



⇒「好き」「とても好き」の回答率は令和6年度 37.4%から令和7年度 43%と増加しています。

本を借りるだけでなく、来館しやすい雰囲気や落ち着く場として環境を整えてきたことにより、数値の改善がみられていると感じます。

今後も、学習支援とともに安心して来館できるような居場所づくりを行っていきます。

### 【全体的な考察】

本調査結果より、昨年度から継続して甲州市の小中学生全体として、読書及び学校図書館に対する苦手意識は少ないことが伺えました。

また、学校図書館の使いやすさや蔵書構成についての満足度は高めの傾向にありました。

取り組みの3年目となる次年度としては、引き続き第三次甲州市子どもの読書活動推進計画にのっとり、関係各所との協力連携をより深めていく中で、苦手意識のある児童生徒のアプローチについて継続して展開していきたいと考えます。

また学校図書館のシステム導入に伴い、より使いやすく利便性のある学校図書館として、児童生徒への読書活動推進に関わっていくと共に、授業支援についてもより積極的に行っていきたいと考えます。